

地域のイベント

- 毎月27日 防犯パトロール (15:00黄金町交番集合)
- 10月13日(日) 防災炊き出し+物資輸送+避難訓練大作戦  
場所 横浜日ノ出棧橋 時間 10:00~
- 10月20日(日) 中区第一北部運動会
- 11月9日(土)、10日(日) はつこひ市場  
会場 高架下スタジオSite-D集会場、かいだん広場ほか 時間 11:00~15:00
- 11月10日(日) 日ノ出町秋まつり  
会場 日ノ出町お祭り広場、Kitchen Gate 横浜日ノ出町
- 11月17日(日) 運河チャレンジ

アートイベント

- 9月18日(水)~10月16日(水) 上大岡で黄金町バザール  
場所 京急百貨店、高架下スタジオSite-A ギャラリー
- 11月9日(土)、10日(日) のきさきアートフェア  
場所 ロックカク、日ノ出スタジオ前 時間 11:00~15:00
- 11月17日(日) みんなで作ろう！秘密基地  
8月末に予定していた企画ですが台風のために延期になっていました。  
子供達と「秘密基地」を作ります。  
場所 ロックカク 時間 11:00~16:00

ぷらり あんな店こんな店

和泉屋



創業90年になる市民酒場「和泉屋」です。  
お客様に魚って「美味しいね」の言葉をいただけるように、毎朝、横浜中央卸売市場に店主が鮮魚を買い付けに行っています。  
11:30からのランチメニューも豊富で年代を問わず賑わっています。  
取り扱う食材酒類に関しても、常に安心安全を心がけています。午後4時30分から11時までの国産どぜう鍋は一押しメニューです。これからもより一層お客様と共に成長していきたいです。

黄金町エリアマップ



# 黄金町まちづくりニュース

vol.142 2024年10月号

発行：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

## 打ち水大作戦

8月3日

年々夏の暑さが増してきてるようです。熱中症警戒アラートも連日発表される今年の夏、日ノ出湧水を使った恒例の「打ち水大作戦」を実施しました。子どもから大人まで総勢50人を超える盛況ぶりでした。冷たい湧水を道路にまいたり、バケツごと浴びる子どももいました。プールに入るより気持ちよさそうでした。近隣の保育園の園児も、気持ちよさそうに水鉄砲で遊んでいました。  
こんなに惜しげなく水を使えることに感謝し、残りの夏を元気に乗り切ろう！と、全員笑顔で終わりました。「打ち水」で、少し涼しくなったように思えました。  
今年も夏の風物詩が一つ終わりました。



## 一般社団法人 大岡川川の駅運営委員会 地域街づくり貢献者～会長賞受賞にあたり

この度は「地域街づくり貢献者～会長賞」に選出頂き、心から感謝を申し上げます。2005年、初黄・日ノ出町地区でパイパイ作戦が開始されてから2年後の2007年に大岡川桜橋が竣工しました。

当時、大岡川沿いのプロムナードはパイパイ作戦の重点地区の一つとして大きな関心を寄せられていました。そんな中で川の駅運営委員会では地域資源として大岡川を捉え、行政や各町内会と協力しながら川を使った街づくりを進めてきました。最初はEポートを中心に地域の若手や子供たちを集めて川に親しんでもらったり、生き物観察などの活動を行ってきました。

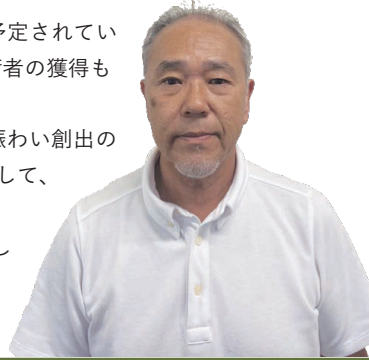
2015年横浜日の出橋の完成を機に一般社団法人化し、横浜市の中心地に存在する立地を生かし、SUPや動力船の利用調整、防災訓練の会場、各種イベントの会場など、多岐にわたり橋橋を利用してもらっています。

また、今後大岡川水系では新たな橋の建設が予定されています。川を通じて他地域との連携や、新たな来街者の獲得も大いに期待できることになりそうです。

安心、安全のシンボルとしての橋から、街の賑わい創出の拠点へと移り変わり、今後は新たな交通の拠点として、しっかりと運営していきたいと思っています。

今後とも、ご支援ご協力のほど宜しくお願い致します。

理事長 小林直樹



中澤秋子さん  
「地域再生まちづくり貢献者」として表彰される



5月23日に横浜市長より感謝状をいただきました。地域再生まちづくり貢献者とのこと。思いは、戦後の京急線の黄金町駅界限(高架下)の街の姿、このままでは自分達の街が売春街になってしまう。小林氏(日ノ出町)、谷口氏(初音町)の後ろに付き、又行政警察市民と三位一体となり大いに皆で頑張った。よくぞ、ここまで普通の街になったかと遠い昔に思いを馳せる。この度の賞状は、私の人生最後の賞状として喜んで戴きました。

## 東小学校キッズクラブ × 横浜市立大学鈴木研究室「子どもみこしプロジェクト」

8月18日の子神社祭礼に向け、東小キッズクラブと横浜市立大学の学生と一緒に神輿を作った「第1回子どもみこしプロジェクト」。神輿づくりの過程から祭礼当日までを振り返りたいと思います。

### 神輿づくり1日目(7/23)

初めて子どもたちと顔を合わせる日だったのでうまく進められるか緊張もありましたが、始まると元気な子どもたちに圧倒されました。子どもたちと一緒に神輿の映像を見て、おみこしのイメージを考えました。「すいか描きたい!」「風鈴をつけたい!」などの案が出て個性のあるお神輿の絵がたくさん集まりました。

### 神輿づくり2日目(7/29)

前回子どもたちが出してくれた提案をもとに「神輿の入り口」「夏の食べ物」「夏の植物」「夏の夜の空」の4つのテーマに分かれて神輿の壁面を作りました。段ボールにスプレーをかけたり、画用紙を貼ったりして作成を2時間程度行いました。最初は何を書いたらいいのか悩んでいる子供たちが多くいたため進まないところがありましたが、少しアイデアを聞いたり、伝えたりするとどんどん進み、想定以上のものができあがりました。

### 神輿づくり3日目(7/31)

3日目は主に前回作ったものを組み立てて立体にしていく作業が中心でした。組み立ては主にキッズクラブのスタッフの方と大学生が行いましたが、特に苦労したのが屋根の設置です。試行錯誤しながらなんとか形にできました。だんだん神輿らしくなっていく過程に子どもたちも興味津々!中にはテンションが上がって段ボールを強く押ししてしまい怒られる子ども。組み立て後は子ども



ちの飾りつけによってすばらしい仕上がりになりました。

### 祭礼当日(8/18)

雨雲が通る予報があったため不安もありましたが、予報が嘘だったかのようにお天気に恵まれました。子どもたちも学生も法被を着て、張り切ってスタートします!太鼓隊の子どもたちは練習の成果を発揮して音頭を取り、最初は恥ずかしがって声を出さなかった子どもも徐々に「わっしょい!」と大きな声を響かせてくれました。猛暑の中だったため後半は子どもたちも学生も疲れがでてきましたが、なんとかゴールまでみんなで運びました。



今年初の取り組みだったので手探りな部分もありましたが、子どもたちのエネルギーや人懐っこさに助けられ大学生の私たちも楽しみながらお神輿を作ることができました。また来年もパワーアップした子どもみこしを作ることができたいなと思っています。ご協力いただいたキッズクラブの皆さん、ステップスリーの竹本さん、ありがとうございました。



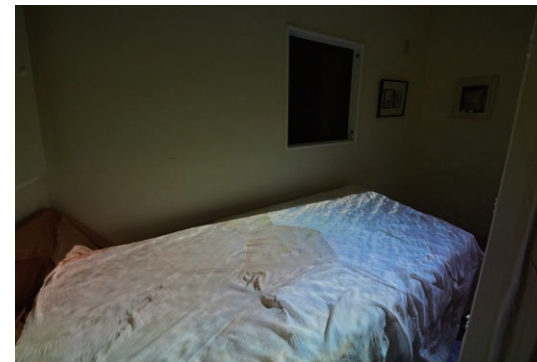
横浜市立大学鈴木研究室 後藤 青木  
リトルフィールド 八尋 江原



瀧健太郎『応答する都市』2024 撮影: 笠木靖之

# 『黄金町バザール2024』閉幕!

約3ヶ月にわたり黄金町エリアを舞台として開催された『黄金町バザール2024』が2024年6月9日で、大好評のうちに閉幕いたしました。“世界のすべてがアートでできているわけではない”という副題のつけられた本企画は、黄金町で制作を続けるアーティストに加え、東北、九州、東京、そして東南アジアから多くのアーティストが集結し、現代社会が抱えるさまざまな問題を背景としながら、多種多様な表現を展開しました。今回は、本企画を振り返り、会期中話題を集めた4作品をご紹介します。



撮影: 笠木靖之

宮内由梨(みやうち ゆり)  
『Riverside - Bedside』2019-2024

作家の宮内自身が3年の間、滞在制作を行っていた、狭い2階建てのスタジオが今回の展示会場。急な階段を上り、2階の奥へと進むと暗い部屋に一台のベッドが横たわる。幾何学的に領域分けされた模様と縫い合わされたガーゼがかけられ、そこに映像が投影されている。映像は黄金町の脇を流れる大岡川の水面や、周辺の季節の巡り、スタジオ周辺の子供たちの声などから影響を受けて構成されたものだという。壁に目を移せば、複数回にわたって作家や横浜市長宛に届いた怪文書の記録を基にしたコラージュ飾られている。消えていった個人的な出来事や流れていった場の時間が、静かに再び浮かび上がり来訪者を包み込む。優しく、あるいは冷たく。



獅子の歯ブラシ(ししのはぶらし)  
『黄金町のシシ』2024

獅子舞マニアの稲村行真(いなむら ゆきまさ)、パフォーマーの工藤結衣(くどう ゆい)、美術家の船山哲郎(ふなやま てつろう)からなる3人組の獅子舞ユニット。これまで様々な土地を訪れ、その土地の“獅子舞生息可能性”を探りながら新たな獅子舞(シシ)を生み出してきた。今回は黄金町で見つけたお酒のケースや古地図、作品から出た廃材などから獅子舞を作りあげた。滞在の最後にそれを纏って黄金町を練り歩くパフォーマンスを敢行。練り歩きに合わせて流したお囃子は、高架を走る電車の音をサンプリングして作られていて、黄金町で生まれたシシがこの町に降り立った瞬間を観客は目撃した。



撮影: 笠木靖之

青木真莉子(あおき まりこ)  
『呼吸する皮膚と聖なるパイプ』2024

展示会場に入ると、奥の小部屋に設置されたスピーカーから、トントントントとリズムを刻む音が休むことなく鳴り響いている。二階に上がると、透明の立方体がメタリックのシンク台の上に置かれていて、近づいてよく見るとそれは氷の塊で、溶けた液体はシンクの排水溝から流れ落ち、その行方を追って見れば、台の下の床には穴が開いており、その穴からさらに下の空間へと滴り落ちていく。一旦会場をでて、裏口から再び中に入ってみると、そこには銀色の大きな物体が鎮座しており、天井に開いた穴から水が滴り落ち、物体にぶつかってトントントントとリズムを刻んでいるのだった。これまで見てきた別々の事象が一気に集約する。ただ、リズムを刻むその水滴は銀色の大きな物体にぶつかった瞬間に水蒸気となってこの町の何処かへと消えていくのだった。

和田昌宏(わだ まさひろ)  
『Songs For My Son』2024



撮影: 笠木靖之